あべちょこ

～あべのの情報をちょこっとお届け～

ちいきつながり応援隊 情報誌
Vol.07
令和５年度
号外





高齢者食事サービス・ランチタイム交流会を開催しました！

令和６年１月３１日（水）午後２時から、あべのハルカス２５階・会議室にて、高齢者食事サービス・ランチタイムの活動に関わっている地域の方々３７名に集まっていただき交流会を開催しました！

阿倍野区では、昭和５５年に丸山地域から食事サービス事業が始まり、区内全域に広がっていきました。食事を提供するだけではなく、会食や配食、持ち帰りを通じて、高齢者に声をかけたり、顔を合わせて世間話をしたり、気にかけたりすることが地域の中でのつながりづくりとなっています。コロナ禍の期間は、人との関わりが最小限に抑えられたことで、食事サービス事業も制限されるなど影響がありましたが、令和５年５月以降は活動も動き始めました。



7グループに分かれて話す会場の様子

食事サービスを利用される方々に、より楽しんでもらうためにどのような工夫をしているのか、他の地域ではどのように取り組んでいるのか聞いてみたいという声があがり、今回の交流会の開催に至りました。７グループに分かれ、二つのテーマに対して「こんな工夫をしているよ」「これはどうしているの？」というように話が進み、尽きることなく意見が交換されました。中には「時間が足りない」「次回もして欲しい」というお声もいただき、参加していただいたみなさまに有意義な時間を過ごしていただけたようです。

話し合った内容は中面へ

テーマ1　イベントの時　どんな工夫してる？

イベント、何してる？



最多開催　クリスマス　８地域
次点　七夕・お正月　5地域
その他　誕生日、ひな祭り、敬老の日、etc..

それぞれの工夫

手づくりの季節品や日用品を付ける

年末には翌年の干支にちなんだ物など。中には、干支の根付を贈るということをもう10年以上続けているところもありました！



巾着、ポーチ、ティッシュケース、彩りの良い布を使ったものなど、気持ちが明るくなります！



お菓子・クリスマスケーキ

おすすめのお店についての話もちらほら聴かれました

誕生日のお祝い

お花や歌
写真を撮るなど

時間がかかるし大変だろうと思われることも、笑顔で楽しそうに話しておられました
イベントに限らず普段から、心をこめて活動をされていることが伝わってきました

イベントじゃなくても…

汁物をつける　7地域

お味噌汁が最多！お吸い物やミネストローネなども
会館で作るところもあれば、会館では
火が使えないなどの規制に悩むところも…

お菓子を付ける　4地域

果物を付ける　2地域



それぞれ、心を尽くした
“おもてなし”をされています

多かった意見



コロナで人数が減ってしまった

コロナ禍以降、歩行が困難になった、気力を失ったなど、利用者のみならずボランティアの方々にも影を落としていることが分かります。配食で利用者の方の様子を見守るほか、再びみんなで集まり、話しながら食事をしようと会食を再開した地域、今まさに検討中の地域など、それぞれ話し合い、最善を考えて活動されています

限られた時間でお話しいただいた内容はごく一部であり、今回挙がらなかっただけで、ほかにもいろんなものを付けたり、つくったりという地域があるかもしれません。どの地域でも、みなさまに楽しんでもらえるように考え、準備をされていらっしゃいます。

テーマ2 利用者さんがおらん時、どうしてる？

会食に来ない、持ち帰り分を取りに来ない、配食しても家にいない、など…
そんなときはどんな対応をしているか、話し合いました。

☎食事サービス委員長に電話

委員長に情報を集約し、そこから対応を話し合い、同じ町会の人や友人・知人など適した人から電話をかけて、本人やヘルパーさんなど必要なところへ連絡を取るなどされているようです。情報共有にグループLINEを活用しているという地域もありました







☎本人に電話

注文確認のため事前に電話。当日も忘れている様子の方には電話をするなど、必ず確認。電話がつながらなければ何度も訪問してお弁当を渡す、手紙をいれる、どうしても直接渡せない時は隣の人に頼むなど、それぞれ苦心されているようです

個人情報保護の壁

インターホンや電話の音に気付かない、固定電話は詐欺防止のため気付いていても出ないなどの場合、その次に取れる対応がなく迷うという方も…

残った食事、弁当をどうする？

処分する、ボランティアが買い取るなどさまざま。中には「〇時まで待ちます」と明確に時間を区切り、時間を過ぎたら処分する決まりを作っている地域もありました。余らせないように、利用者の方に行き渡るように調整しつつも、予測には限界があり、必ずしもぴったりというわけにはいかないことあるようです

すべての人の事情を常に把握できるわけではないボランティアの方々にとって、当日直接お会いして様子を確認できることが、ほっとすると同時にやりがいを感じられるときでもあるようです。それぞれの方の様子をやさしく気にかけ、隣近所の方にも声をかけるなど、みんなで「見守る」という仕組みがあたたかく形成されています。

開催形態について

「会食」とは
地域の会館に集まって、みんなで会話をしながら食事をします

「配食」とは
ボランティアが利用者宅に訪問し、様子を見守りながらお弁当を届けます

「持ち帰り」とは
会食の代わりに生まれた形。会館で準備されたお弁当を持って帰ります

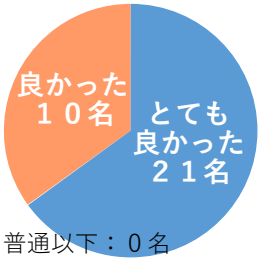






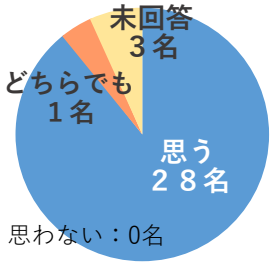
交流会　参加者アンケート結果（一部抜粋）

●交流会はいかがでしたか



５段階評価でほとんどの方に「良かった」と回答いただきました

●また交流会があれば参加したいと思いますか



半数以上の方が「思う」と回答。運営や予算のこと、ボランティアの高齢化について話したい、ふれあい喫茶についても話したいなど

●グループワークで印象に残った意見

・会食ではイベントを取り入れている地域が多かった
・利用者さんだけでなく、メッセージ付きプレゼントをボランティアさんにも渡す
・食事サービスの誘いに伺うときは、有料などの最初の説明が大切

●ご意見・ご感想

・各地域の取り組みがよくわかった
・聞いた内容を、自分の地域にもち帰っていきたい
・いろんなことをもっと聞きたいが、時間が足りなかった

ご協力いただいた関係機関（敬称略）

阿倍野区北部地域包括支援センター・阿倍野区中部地域包括支援センター・阿倍野区地域包括支援センター・阿倍野区役所・阿倍野区まちづくりセンター

編集/発行：阿倍野区社会福祉協議会 ちいきつながり応援隊(生活支援体制整備事業)
住所：〒545-0037 大阪市阿倍野区帝塚山1-3-8
Tel：06-6628-1212 / Fax：06-6628-9393　taisei@abenokushakyo.jp

ホームページはこちら！